

2021年度第3四半期 決算補足資料

2022年2月14日



2021年度 第3四半期決算のポイント

(単位：百万円)

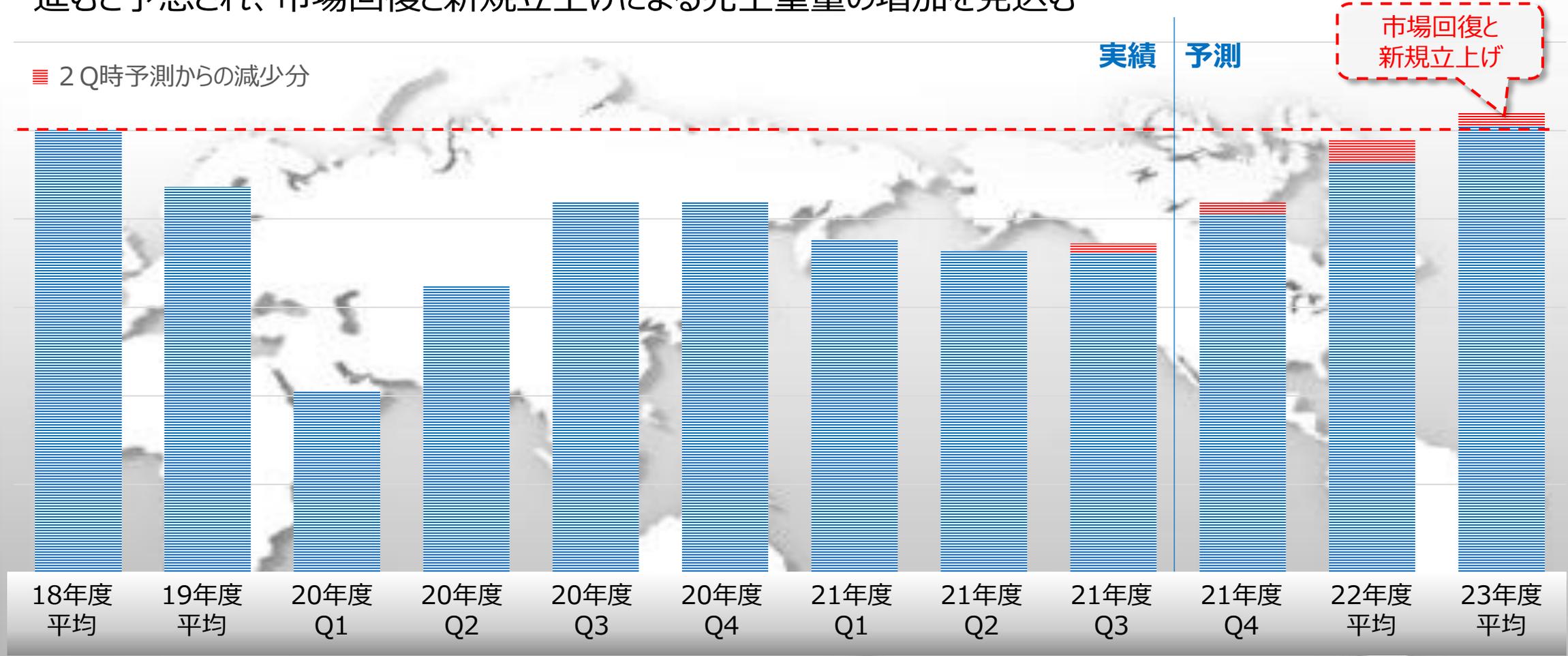
	2020年度 上期	2020年度 下期	2021年度 上期	2021年度 3Q (単期)	2021年度 第3四半期
売上高	36,836	56,137	54,647	29,064	83,711
営業利益	△3,802	1,248	△1,943	△778	△ 2,721
経常利益	△3,150	1,056	△1,680	△687	△ 2,367
当期純利益	△3,978	1,135	△1,780	△5,037	△ 6,817
売上重量 (2018年度を100と した指標)	53	84	74	72	73

《第3四半期累計》

- 売上高：837億円と前年同期比30%増。ただし売上重量は同16%増にとどまり、地金市況上昇と円安による影響で金額ベースが増加。
- 営業・経常利益：生産性改善活動による効果あるが、地金市況高騰による調達コスト、水道光熱費の上昇による影響受け赤字。
- 当期純利益：3Qに米国工場の減損損失計上等により68億円の純損失。
(2022年2月売却済の政策保有株式の売却益20億円は4Qに計上予定で、通期は45億円の純損失の予想)

グローバル 売上重量

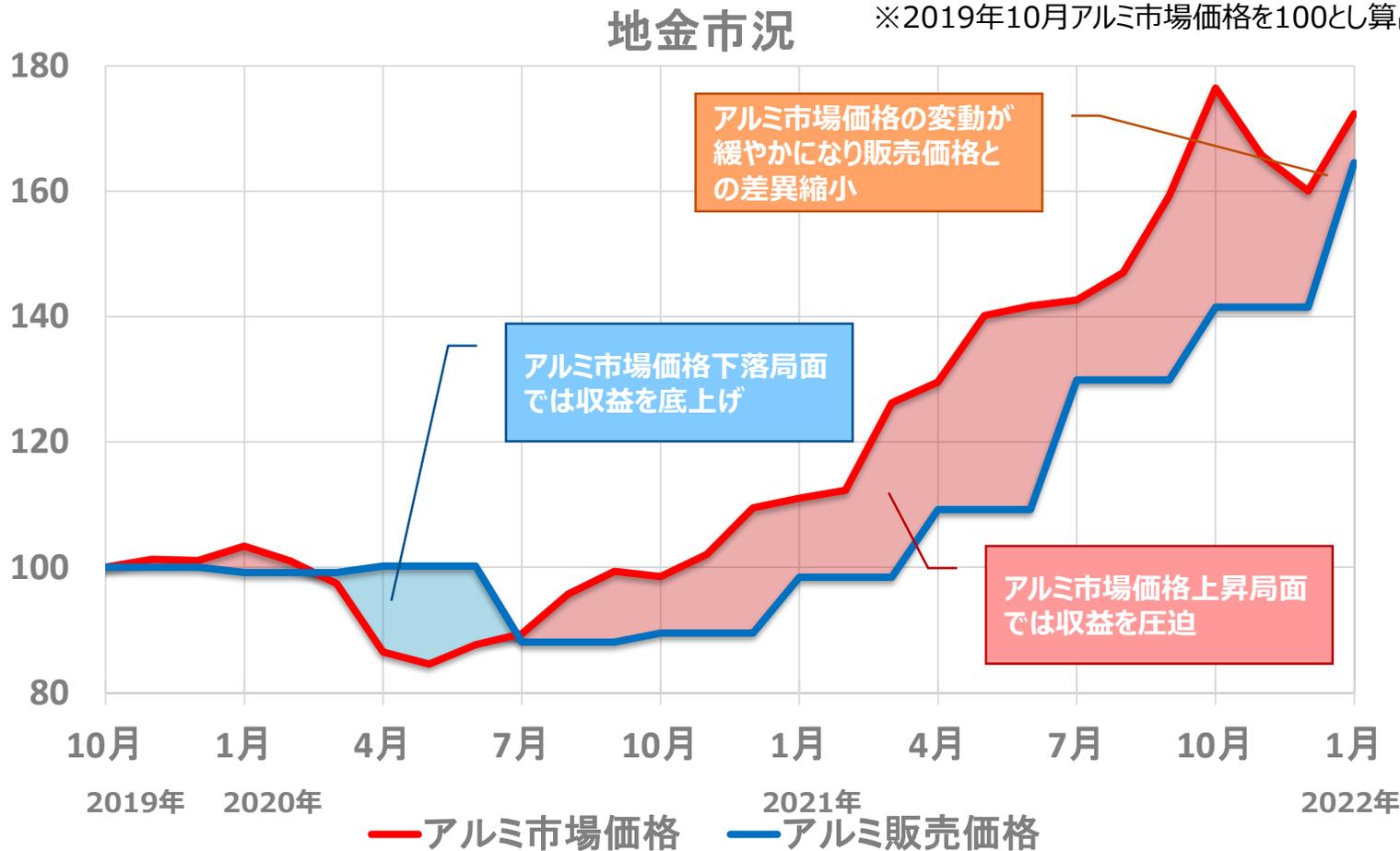
- 2 Q時予測に対しては売上重量の回復が遅れると見られるものの、部品供給不足による影響の緩和が進むと予想され、市場回復と新規立上げによる売上重量の増加を見込む



※2018年度平均を100とした場合の売上重量推移

アルミニウム地金価格

2019年10月から直近までのアルミ市場価格とアルミ販売価格の推移



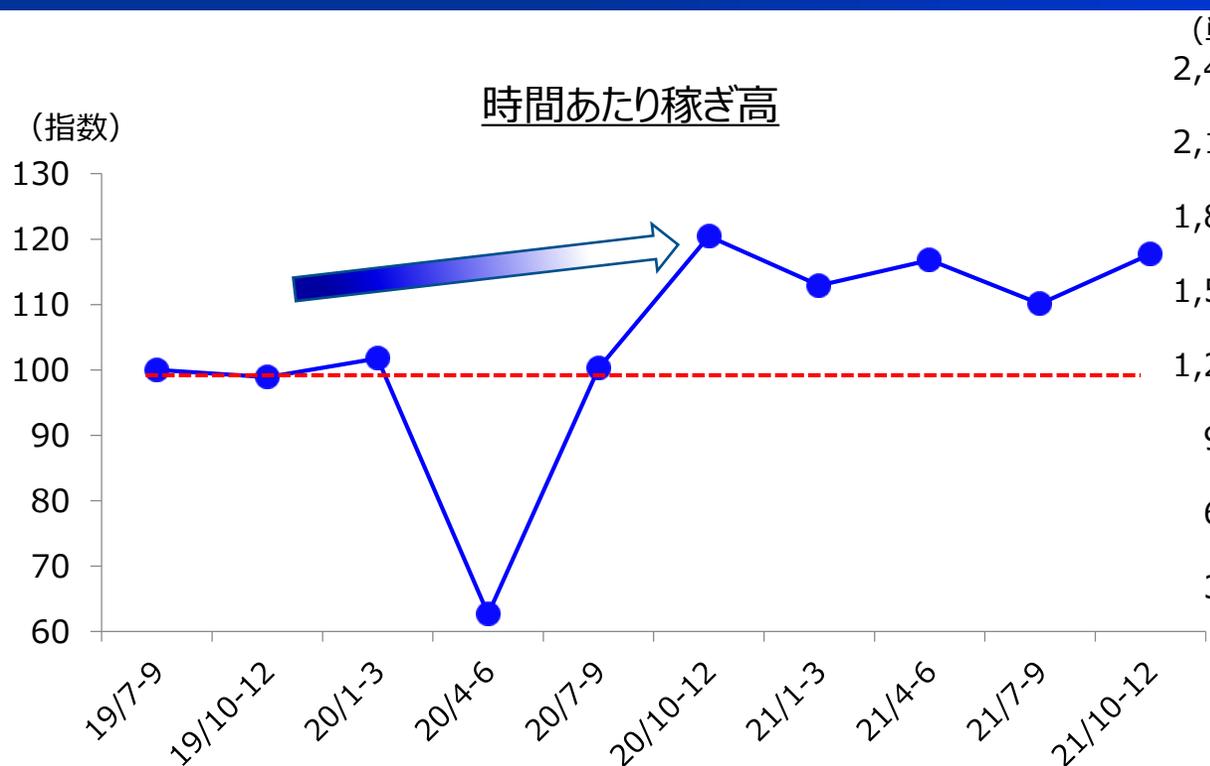
アルミ市場価格変動影響

10月まで急騰していたアルミ市場価格は一旦下落に転じ、再度1月以降上昇。

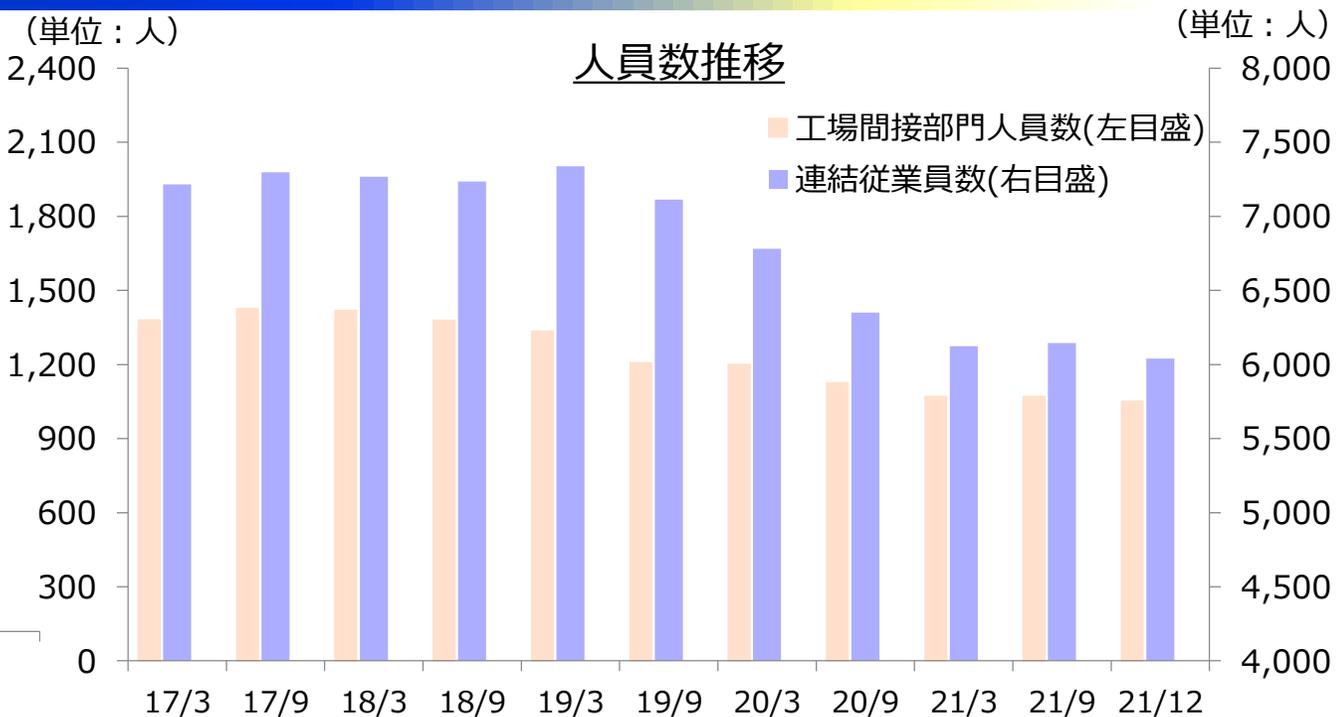
第4四半期は約3か月のタイムラグで反映されるアルミ販売価格もアルミ市場価格に追いつき差異が縮小し収益影響は緩和見込み。

※アルミ市場価格の近況
21年10月中旬から22年2月中旬は
\$2,500～\$3,200のレンジで推移。

リーンな生産体制の推進状況



21年度第3四半期は受注量減少への適応が進み改善傾向を維持。



- ・今後の生産数量増加への対応も効率的配置により抑制
- ・全体ではラインの工夫、業務見直し等により効率化を継続
- ・連結従業員数▲1,297名減（19年3末⇒21年12末）

※時間あたり稼ぎ高 = 売上高から原材料費等の直接費を除く金額 ÷ 工場人員の総労働時間

ダイカスト事業

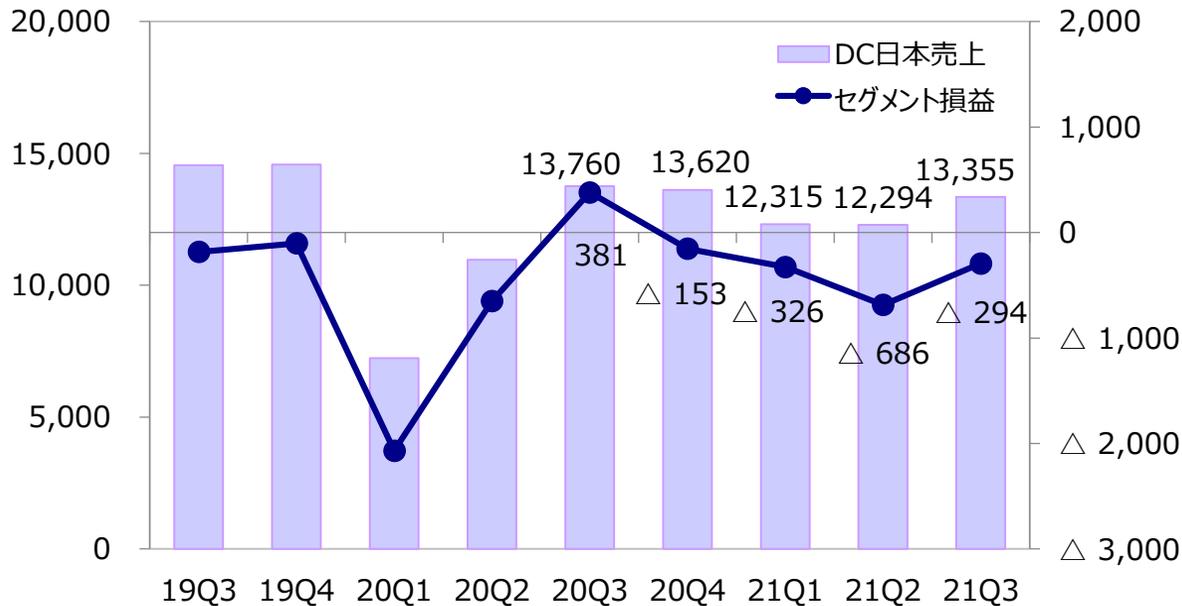
(単位：百万円)

		2020年度 上期	2020年度 下期	2021年度 上期	2021年度 3Q (単期)	2021年度 第3四半期
日本	売上高	18,204	27,380	24,609	13,355	37,964
	セグメント 損益	△2,719	228	△1,012	△294	△ 1,306
北米	売上高	8,610	13,018	14,190	6,623	20,813
	セグメント 損益	△323	417	△553	△495	△ 1,048
アジア	売上高	7,603	12,328	11,726	6,548	18,274
	セグメント 損益	△959	361	△643	△122	△ 765

※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算となります。

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



《第3四半期》

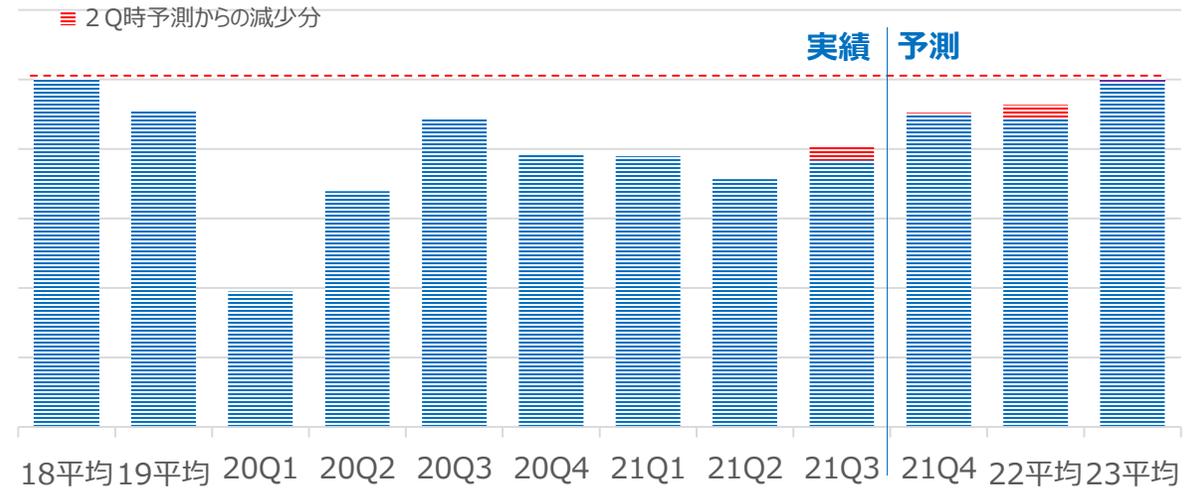
- 売上重量は21年度 3 Qは2 Q比増加
- 損益は地金影響、エネルギー費アップによる製造コスト増あるが、販売数量も寄与し2 Q比改善

《累計》

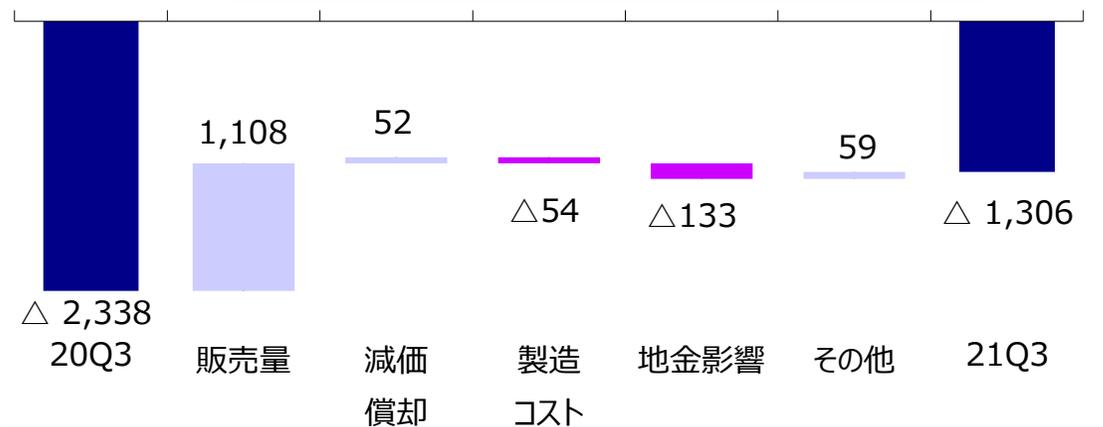
- 売上：前期比60.0億円増（18.8%増）だが、販売量は15%増
- 損益：前期比10.3億円改善。販売量増の増収効果とともに、エネルギー費増による影響を生産性改善でコスト増を一部抑制

売上重量の推移

※2018年度平均を100とした場合の売上重量推移

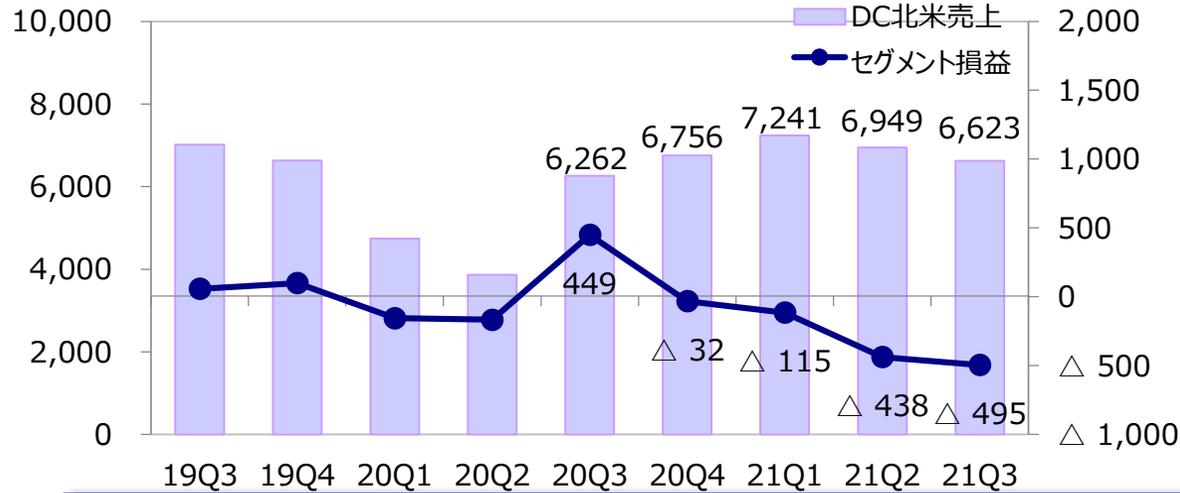


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



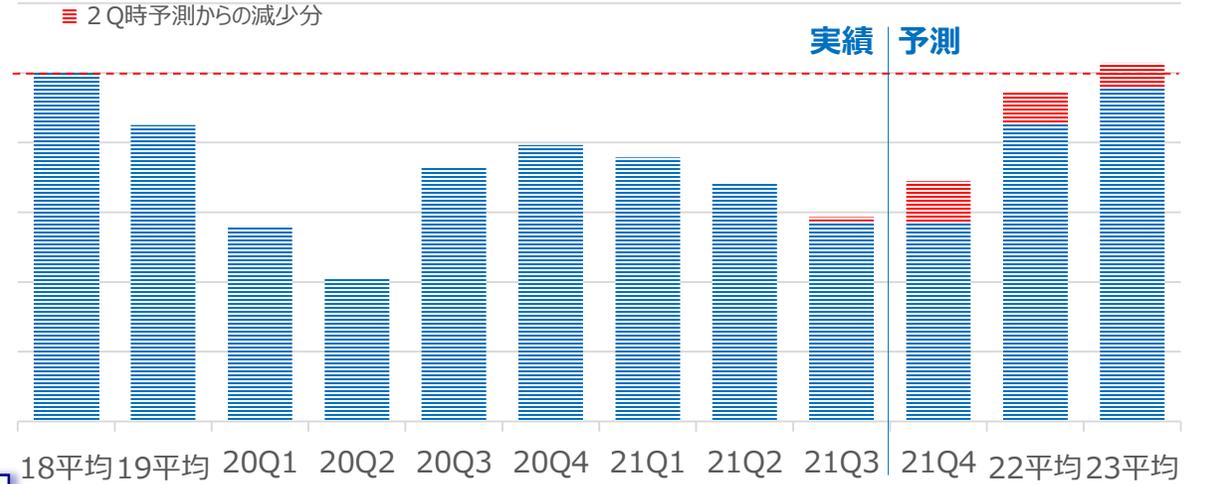
ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上重量の推移

※2018年度平均を100とした場合の売上重量推移



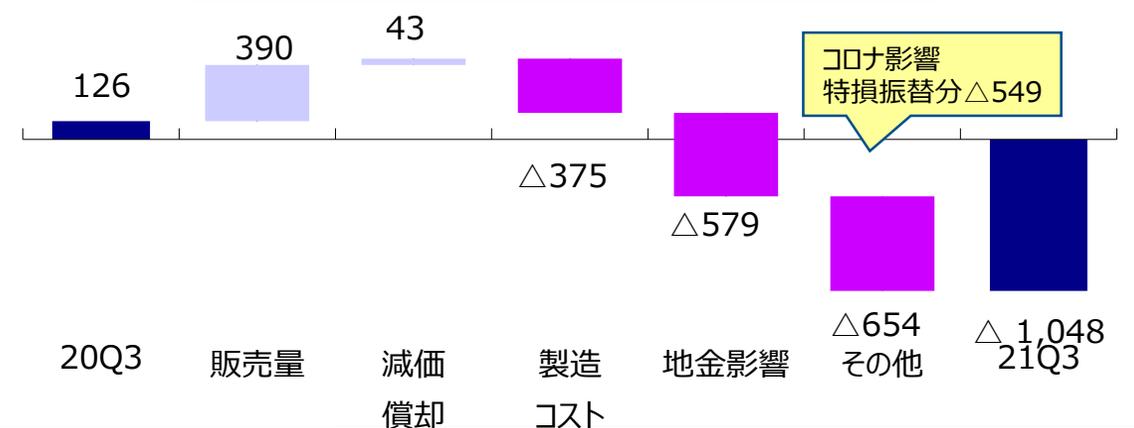
《第3四半期》

- 半導体等自動車部品不足による顧客の生産調整等の影響で、3Qの売上重量が2Q比減少
- 重量減と地金影響に伴い2Q比収益悪化
- 4Qは主要販売先の生産減により前回予測から減少見込み

《累計》

- 売上：前期比59.4億円増（39.9%増）
- 損益：前期比11.7億円悪化。内5.5億円は前期コロナ影響の特損振替分による特殊要因。地金コストが損益に影響
- 損益悪化している米国工場で減損計上し、抜本的な収益改善図る

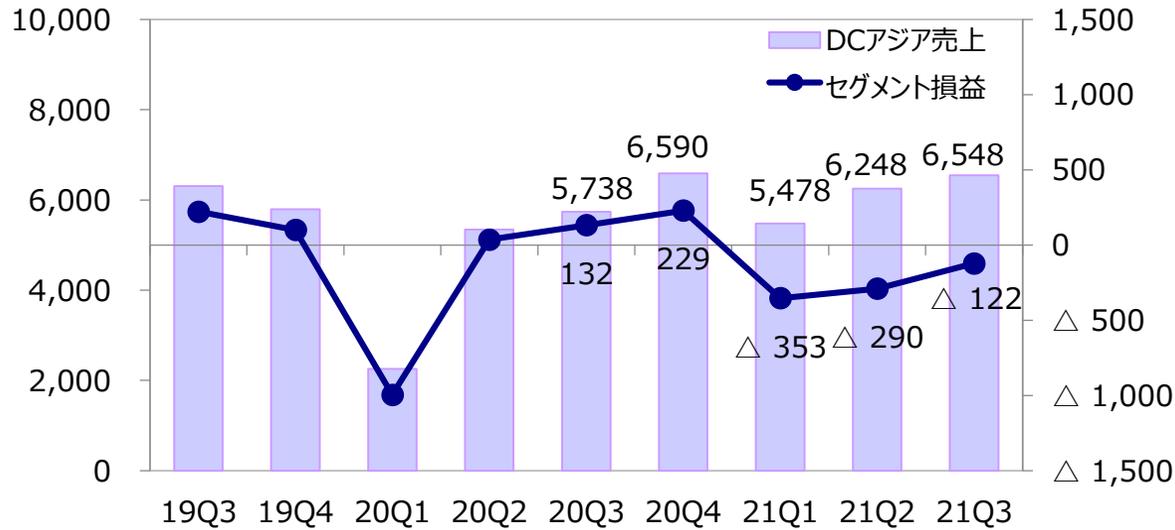
セグメント損益増減要因（単位：百万円）



決算期:アメリカ3月期、メキシコ12月期
レート (20Q3⇒21Q3) アメリカ 105.88 ⇒111.40 メキシコ 107.49 ⇒108.57

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



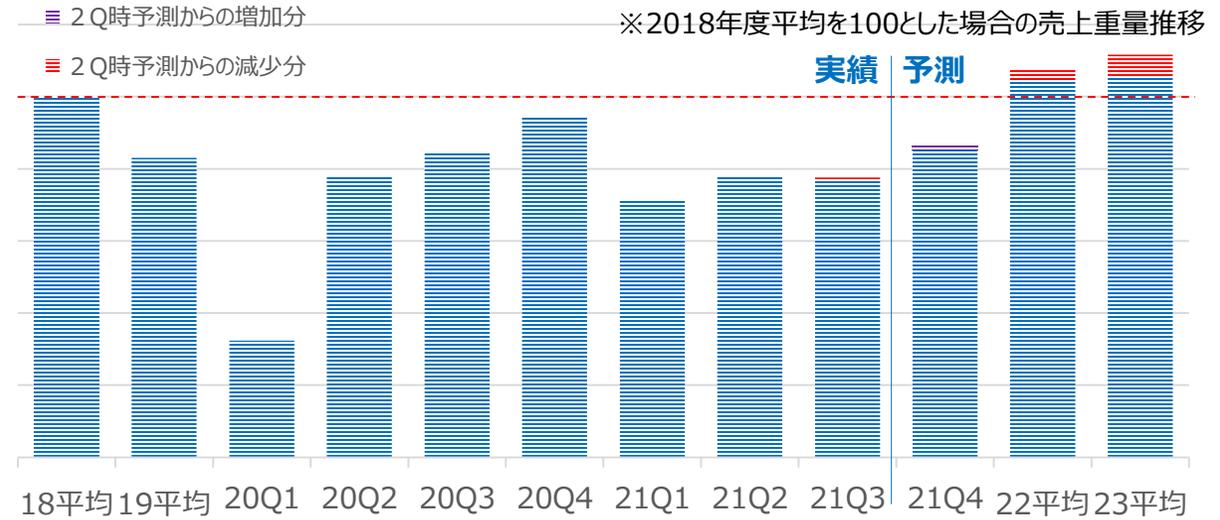
《第3四半期》

- 3Qの売上重量は2Qとほぼ横ばい推移
- 損益は地金影響あるが2Q比赤字幅縮小

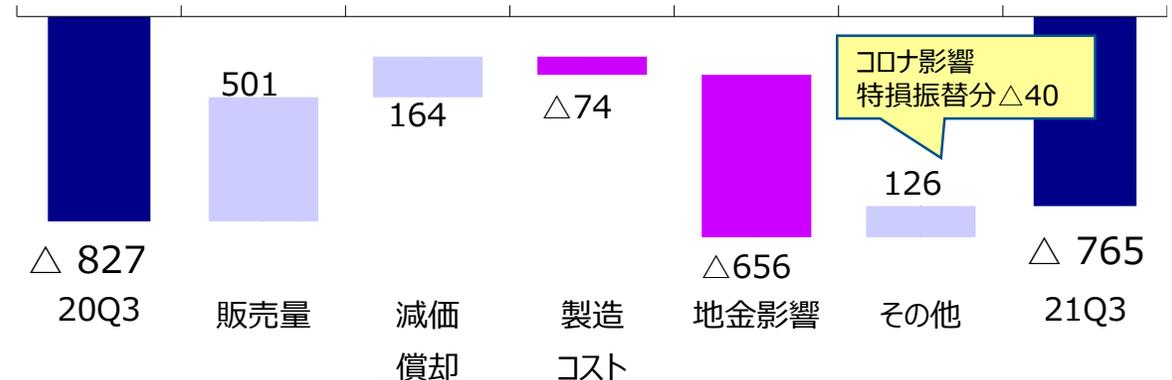
《累積》

- 売上：前期比49.3億円増（37.0%増）
- 損益：前期比と同水準。アルミ市況の高騰による地金コスト増が大きく影響。また売上重量回復弱いことが要因

売上重量の推移



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2020年度 上期	2020年度 下期	2021年度 上期	2021年度 3Q (単期)	2021年度 第3四半期
アルミニウム 事業	売上高	1,394	2,089	2,832	1,550	4,382
	セグメント 損益	△41	74	144	57	201
完成品事業	売上高	1,023	1,322	1,289	988	2,277
	セグメント 損益	148	172	112	73	185

アルミニウム事業

- 売上：販売重量が前年同期比で23.5%増となり増収。
- セグメント損益：アルミ市況の高騰はあるものの売上高の増加、原価低減等の寄与で増益。

完成品事業

- 売上：前年同期比では主要販売先である半導体関連企業のクリーンルームや通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し増収。
- セグメント損益：個別受注物件による変動影響はありますが安定的な利益を確保。

2021年度 通期業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	配当 (円)
前回発表予想	114,000	△2,500	△2,300	△2,800	10 (中間5、期末5)
今回発表予想	114,000	△2,500	△2,300	△4,500	10 (中間5、期末5)
増減額	—	—	—	△1,700	—

■売上高、営業利益、経常利益：修正なし

■配当：修正なし（期末配当予想5円を維持）

■当期純利益：特別利益・特別損失の計上に伴い修正
▲2,800百万円 ⇒ ▲4,500百万円

<特別利益>

・政策保有株式の売却益 2,040百万円

<特別損失>

・アーレスティウィルミントンの減損 3,777百万円

・アーレスティダイモールド浜松の減損等 371百万円

■連結自己資本比率：40.9%（第3四半期末）

【アーレスティウィルミントンの収益体質の抜本的改善】

- 電動化製品を中心とした売上拡大
 - 売上高：21年度90百万ドル⇒23年度140百万ドル
 - 受注確定済みの新規量産品が寄与
- 北米における戦略子会社としての親会社支援
 - アーレスティによる成長資金の供給（増資引受）
 - 本社による人的支援と経営指導の強化
- 財務戦略による収益基盤の改善
 - 固定資産の減損34百万ドル
 - 21年度第4四半期から償却負担が軽減（年間約5百万ドル）

事業環境等の今後の見通し

■ 21年度 3Qまでの事業環境と施策

売上重量：

部品供給不足等により減少

地金価格：20年下期以降の急騰

国内工場の統合・再編
金型会社統合、加工関連会社合併

米国工場の抜本的改善
成長資金の供給、固定資産の減損

【中長期】電動化・電気化の加速化

【中長期】カーボンニュートラル

■ 今後の見通し

部品供給不足による影響緩和
新規立上げによる増加見込み
新規品は主に電動系部品が貢献

※2018年度平均を100とした場合の売上重量

	21年度 3Q累計	21年度 4Q	22年度	23年度
日本	75	90	90	100
北米	65	55	85	95
アジア	75	85	105	105
連結	75	80	95	100

地金価格の上昇ペースは緩やかに、4Q以降顧客販売価格改定がほぼ正常化（P3）

生産体制の効率化、重複業務集約による統合効果（約3億円）

受注確定品による売上拡大（23年度：+50百万ドル増加）
減価償却負担軽減（年間約5百万ドル）

2030年電動車向け売上比率55%に向けて活動中

2030年CO2排出量原単位▲50%削減に向けて活動中



Casting **O**ur Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。